

授業科目	在宅看護概論	単位	1	時間	15	履修時期	2年次1学期
設定理由	看護の対象は疾病の有無に関わらず地域で生活している人々である。病院での生活は一時的なものであり、疾病あるいは障害を持ちながら生活することの意義と、その生活を支える制度や看護を理解する必要がある。						
学習目標	在宅での生活と対象となる人々とその家族を理解し、疾病や障害を持ちながらも住み慣れた環境での療養を支援する在宅看護の在り方を学ぶ。入院中から始まる退院調整や多職種連携における看護の役割や機能について学ぶ。						
授業内容 (講義ごとの内容)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の概念と在宅看護の特徴 <ol style="list-style-type: none"> 1) 在宅看護の概念と在宅看護の特徴 2) 社会の変化と在宅看護のニーズ 3) 在宅看護の特徴 4) 在宅看護活動の場 2. 在宅看護の対象者 <ol style="list-style-type: none"> 1) 在宅療養者の生活 2) 在宅療養者と家族のニーズ 3～4. 療養者と家族を支える制度と支援システム <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域特性と施策、地域の保健・医療・福祉 2) 在宅療養者を取り巻く地域の特性 3) 在宅療養者を支援する施策と保健・医療・福祉 4) 他職種連携 5) 地域包括ケアシステム 6) ケアマネジメント 7) 介護保険制度 5. 退院調整と継続看護の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療施設と地域をつなぐ退院支援・調整 2) 継続看護の意義 6.～7 訪問看護ステーションの管理・運営 <ol style="list-style-type: none"> 1) 訪問看護制度 2) 訪問看護ステーションの管理・運営 3) 在宅看護のリスクマネジメント 8. 試験 					担当者(時間)	
						専任教員(28)	
						看護師(2)	
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 (医学書院) 国民衛生の動向						
備考							

授業科目	在宅看護技術	単位	1	時間	30	履修時期	1年次2学期
設定理由	在宅療養者の日常生活の支援は、療養者と家族が生活者という視点で捉え、主体は療養者にあることを理解することが重要である。在宅看護技術では、家庭での生活・価値観を尊重した看護を提供するための人間関係構築の技術、基本技術、日常生活援助技術、医療処置に伴う援助技術が安全で確実に実施できるよう、知識・技術を習得する。						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護過程の展開や他職種との連携など、在宅看護を展開していく際のポイントを理解する。 2. 在宅で求められる看護技術、医療技術とそれに伴う看護を理解する。 						
授業内容 (講義ごとの内容)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域包括支援活動の実践例からの学び 2. 在宅看護におけるコミュニケーションの基本 訪問時の心構えとマナー、在宅における面接の技術 3. 在宅看護におけるフィジカルアセスメントと訪問時の観察の視点 4. 演習：療養者宅への訪問と訪問時の観察（演習） 5. 生活の場における日常生活援助 6. 医療管理を必要とする人の看護 7. 演習：日常生活援助および医療管理を必要とする人の看護 8. 演習：日常生活援助および医療管理を必要とする人の看護 9. 演習：日常生活援助および医療管理を必要とする人の看護 10. 療養上のリスクマネジメント、災害時の対応 11. 包括的なケアマネジメントとの連携と看護の位置づけ 他職種との連携、カンファレンス、継続看護 12. 在宅における看護過程の考え方と在宅看護の目指すところ① 13. 在宅における看護過程の考え方と在宅看護の目指すところ② 14. 在宅療養者の看護の実際 15. まとめ/試験 					担当者（時間） 専任教員(30)	
評価	筆記試験 レポート課題						
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 （医学書院） 写真でわかる訪問看護 （インターメディカ）						
備考	在宅実習室は、療養者のご自宅の居室と想定して使用すること。						

授業科目	在宅看護実践方法論	単位	2	時間	30	履修時期	2年次 2学期
設定理由	在宅療養場面における特徴的な事例を通して、人間関係展開のプロセス、問題解決のプロセスを学ぶ。						
学習目標	障害を持ちながら生活するための在宅療養者の看護過程の展開を学ぶ。						
授業内容 (講義ごとの内容)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養、訪問看護の概要を理解する 2. 事例展開①リハビリ病院退院計画 データベースの整理、情報整理からアセスメントまで 3. 事例展開②リハビリ病院の退院計画、問題点抽出、計画立案 4. 事例展開①終末期の療養者に対する在宅看護 事例からがん患者の訪問看護を理解する 5. 事例展開②終末期の療養者に対する在宅看護、看護展開 6. 試験(1～5) 7. 在宅を訪問するということ 8. 認知症とは 9. 事例展開①認知症の療養者に対する在宅看護 10. 事例展開②独居の療養者に対する在宅看護 11. 試験(7～10) 12. 慢性閉塞性肺疾患(COPD)の病態と経過 13. 慢性閉塞性肺疾患(COPD)の悪化予防と症状に応じた日常生活援助 14. HOTの導入と退院後の生活指導と退院支援 15. 慢性閉塞性肺疾患(COPD)患者への訪問看護の役割 16. 事例展開 慢性閉塞性肺疾患(COPD)によりHOTを利用している療養者に対する在宅看護 17. 試験(12～16) 					担当者(時間)	
						看護師(10)	
						非常勤講師(9)	
						看護師(11)	
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 (医学書院)						
備考							

授業科目	在宅看護論実習	単位	2	時間	90	履修時期	3年次 1・2学期
設定理由	看護の対象は疾病の有無に関わらず地域で生活している人々であり、病院での生活は一時的なものである。体力の低下や疾病あるいは障害を持ちながら地域（在宅）で生活をしている人々を対象に、予防から療養生活が支えられている現状を知り、多職種と協同して看護師の役割を果たすことが求められている。						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅の対象の特性を理解する。 2. 地域で生活する人及びその家族の生活を支える看護を理解する。 3. 地域包括ケアシステムの理解を深め、保健医療福祉チームの中での看護の役割を考える。 4. 生活の場を拠点として行う看護のための基本姿勢・態度を身につける。 						
授業内容（講義ごとの内容）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 以下の3か所で実習を行い、訪問への同行や援助、事業への参加を通して学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域包括支援センター 2) 米子市・境港市の保健センター 3) 訪問看護ステーション 					担当者（時間）	
	専任教員						
評価	<p>実習の取り組み姿勢</p> <p>評価表に基づき、実習目標への到達度、実習状況（出席状況・実習態度）、実習記録物の提出等について総合的に評価する。</p>						
テキスト							
備考	詳細については実習要項を参照してください						

授業科目	看護管理	単位	1	時間	15	履修時期	3年次 1学期
設定理由	看護管理とは、管理者だけでなく、看護実践者にも必要な知識と技術であることを理解する。看護管理が、チームや組織、システムを動かしていく活動であることや、看護をしくみとしてとらえ、どのようにすればよりよい看護が提供できるかなどについて学ぶ。						
学習目標	看護職者として、必要な管理や、看護実践につなげるための看護マネジメントについての知識を習得する						
授業内容（講義ごとの内容）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今後の医療とヘルスケアシステムについて 2. 看護とマネジメント 3. 看護ケアのマネジメント 4. 看護サービスのマネジメント 5. 看護を取り巻く諸制度、看護職のキャリアマネジメント 6. マネジメントに必要な知識と技術 7. 看護管理の今後の課題 8. 試験 					担当者（時間） 非常勤講師（） 看護師（6） 専任教員（7）	
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践①（医学書院）						
備考							

授業科目	医療安全	単位	1	時間	15	履修時期	3年次 1学期
設定理由	医療事故というかたちで患者に実害を及ぼすことのないような仕組みを学び、医療事故の防止対策と、医療施設全体の組織的な自己防止対策の二つの対策について学ぶ。医療事故の発生を未然に防ぎ、患者が安心して安全な医療を受けられる環境について学ぶ。						
学習目標	医療の質と安全を確保する為に、具体的に医療現場で行われる必要な業務を把握し、医療事故を未然に防ぐ知識と心構えを習得する						
授業内容（講義ごとの内容）	1. 医療事故について 2. 医療事故について（シリンジ・輸液ポンプ） 3. 輸血業務、内服薬業務、経管栄養（注入）業務 4. チューブ管理と事故防止、業務領域を超えて共通する間違いと発生要因 5. 療養上の世話の事故防止 6. 医療安全とコミュニケーション① 7. 医療安全とコミュニケーション② 8. 試験					担当者（時間） 看護師（15）	
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 統合分野 医療安全 （医学書院）						
備考							

授業科目	災害看護	単位	1	時間	15	履修時期	3年次 2学期
設定理由	災害看護教育の柱は「命と生活を守る」です。物資も人手もない中で、被災者と向き合って生活を整え、自立を促すのが目的となる。急性期の対応や、災害看護として生活の基本を整えながらの長期的な支援の仕方を学ぶ。さらにトリアージや心のケアなど災害時に看護が果たす役割と災害時看護支援活動について学ぶ。合わせて国際看護の視点を学ぶ。						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害が人々の健康に及ぼす影響と障害について学習する 2. 災害時に看護が果たす役割、災害時看護支援活動について学習する 3. 組織的、制度的災害対策について学習する 4. 災害の種類、特殊性と発生からの時期に応じた看護援助の実際を知る 5. 国際看護について学ぶ 						
授業内容 (講義ごとの内容)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害とは 2. 災害看護とは 3. 災害と健康障害とは 4. 感染防御とは 5. 国際看護、国際機関、グループ発表準備 6. 国際看護、国際機関、グループ発表 7. トリアージ（演習） 8. 試験 					担当者（時間） 看護師（15）	
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学（医学書院）						
備考							

授業科目	統合看護技術	単位	1	時間	30	履修時期	3年次 1学期
設定理由	自らの体験を通して身につけてきた看護の知識・技術・態度を統合、活用する力を養う。看護の体験と知識を統合し言語化、行動化しながら、看護技術の根拠、安全性・安楽性を追究し、対象にとってより良いものにするための発想力、思考力を養う。						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術経験のリフレクションを通して自己の課題を明確にする 2. 人工呼吸器を装着した神経筋難病患者的の全体像をとらえ、QOLを考慮しながら必要な看護技術を抽出し、模擬患者への看護技術を安全に実施できる 3. 人工呼吸器を装着した神経筋難病患者的を想定したモデル人形への気管内吸引が確実にできる 4. 複数受け持ち時の時間管理と優先順位、報告の仕方が解り、チームの一員として求められる行動を理解できる 						
授業内容（講義ごとの内容）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術の科学的根拠とケアリング 2. 技術経験のリフレクション 3. 神経筋難病患者的の理解：DVD視聴「生きることを選んで」 4. 神経筋難病患者的の看護過程と援助に基づく演習計画 5. 気管切開・人工呼吸器装着中の管理と援助 6. 気管切開・人工呼吸器管理のリスクマネジメント： 7. エラー分析：気管切開・人工呼吸器管理 8. 人工呼吸器装着している神経筋難病患者的の技術練習 9. シミュレーション 人工呼吸器を装着している神経筋難病患者的の援助 ① 10. シミュレーション 人工呼吸器を装着している神経筋難病患者的の援助 ② 11. 人工呼吸器装着中の気管内吸引・口腔内吸引の技術試験 12. 複数受け持ち時の時間配分と優先順位の考え方 13. シミュレーション 多床室患者の対応 ① 14. シミュレーション 多床室患者の対応 ② 15. 前演習のまとめ 					担当者（時間）	専任教員（30）
評価	技術試験、前演習に基づく記録、演習への参加状況により総合的に評価します。ファイルを作成して綴じて、最終日に提出していただきます。						
テキスト	系統別看護学講座 基礎看護学 基礎看護技術Ⅰ、Ⅱ 看護がみえる①② 生命活動を支える看護技術、老年管技術(神経筋難病患者的の看護)の講義資料						
備考	統合実習Ⅱの神経筋難病患者的を対象とした看護実習の事前学習となる科目です。 3グループに分かれて、4日間の集中講義・演習で実施します。						

授業科目	統合実習Ⅱ (看護マネジメント)	単位	1	時間	45	履修時期	3年次 1・2学期
設定理由	専門分野の各看護学や実習で、得てきた知識・技術等をふまえ、臨床での看護の実務に即した実習を行うことにより、看護師の役割・責任のイメージが広がる。また、優先順位の判断や時間管理、医療・看護チームの一員としての役割や連携の実際を学ぶことで、卒業後の実践に向けた目標を明確にできる。						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複数患者の援助の優先順位の判断と時間管理ができる 2. リーダーとメンバーの役割と業務調整、他部門との連携を理解する 3. 夜間の看護管理と夜間の患者の状態を理解する 4. 病棟の運営、管理の実際を理解する 5. 実習に対して主体的に取り組む姿勢を持ち、卒業後の実践に向けた目標を明確にできる 						
授業内容 (講義ごとの内容)	<p>以下の実習を行い、目標に沿ってリフレクションや課題カンファレンスを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病棟における看護管理 2. リーダー実習 3. メンバー実習 4. 複数受け持ち実習 5. 夜間実習 					<p>担当者(時間)</p> <p>専任教員</p>	
評価	<p>実習の取り組み姿勢</p> <p>評価表に基づき、実習目標への到達度、実習状況(出席状況・実習態度)、実習記録物の提出等について総合的に評価する。</p>						
テキスト							
備考	<p>詳細については実習要項を参照してください</p>						